災害をアーカイブするとは

—東日本大震災の事例から—

○中嶋 聖雄、Seio NAKAJIMA

Keywords : アーカイブ、シビック・メディア、コズモポリティックス、東日本大震災、災害

1 目的

本研究の目的は「災害をアーカイブする」とは何かについて、東日本大震災を例にとり、それがどのように、誰によって、何のためにアーカイブされているのか、という研究の問への答えを導き出すことを目的としている。より具体的には、311 ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ (<http://www.yidff311docs.jp/?lng=eng>)、3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター(<http://recorder311-e.smt.jp/>)、およびリアス・アーク美術館常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」(<http://rias-ark.sakura.ne.jp/2/sinsai/>)を三つのケース・スタディとして詳述する。

2 方法

本研究の調査・分析方法は、インタビュー、参与観察、アーカイブされたメディア・コンテンツの内容分析である。

3 結果

調査・分析の結果、災害をアーカイブするという行為は、「事実を記録する」という行為にとどまらない、大変複雑な社会的・文化的・政治的プロセスであり、様々なアクター（例えば、公的機関、企業；災害を様々な程度に経験した被災者たち）が、災害の様々なフェーズ（例えば、被災前、被災中、被災後・復興期）を、多様なメディアを使って（例えば、動画、静止画、音声、手書きおよび印刷されたテキスト、絵）、アーカイブするという行為の様々な構成要素（例えば、記録、編集、利活用）にわたって、事実記録（ノン・フィクション）だけでなくフィクションの手法も使いながら、遂行されるものである、という結果が導きだされた。

4 結論

以上により、東日本大震災を含む災害自体が、時の経過によってその意味を変えてゆくムービング・ターゲットである以上、多様なアーカイブのあり方を許容する空間を保証することが重要である、という結論が導き出された。

なお、本報告は、経験的事例の記述に関しては、参考文献にある中嶋（2018）と重なる部分が多いが、今回は、理論的な議論をさらに発展させて、アーカイブの多様なあり方が、市民社会・公共圏の議論にどのような分析的示唆を与えるかに特に力点を置きたい。そこでは、公共圏論の中心的論者であるユルゲン・ハバーマスの議論、さらにはアクターネットワーク理論の提唱者の一人であるブリュノ・ラトゥールが提起したコズモポリティックス (cosmopolitics) という概念を援用する。

【主要参考文献】

-
- Beck, Ulrich. 1992. *The Risk Society: Towards a New Modernity*. Newbury Park, CA: Sage.
- Foucault, Michel. 1972. *The Archaeology of Knowledge*. New York. Pantheon Books.
- Habermas, Jurgen. 1989. *The Structural Transformation of the Public Sphere*. Cambridge: Polity Press.
- Latour, Bruno. 2004. “Why Has Critique Run Out of Steam? From Matters of Fact to Matters of Concern.”
Critical Inquiry 30 (Winter 2004): 225-248.
- , 2017. *Facing Gaia: Eight Lectures on the New Climate Regime*. Cambridge: Polity Press.
- 中嶋聖雄, 2019, 「シビック・メディアとしての震災アーカイブの多様な試み——311 ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ、3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター、およびリアス・アーク美術館常設展示の事例から」, 三友仁志編, 『大災害と情報・メディアアーレジリエンスの向上と地域社会の再興に向けて』 勁草書房.